

平成26年度土木学会技術功労賞受賞報告

当会が推薦した黒谷武晴氏（株式会社大歳組／広島県技士会）が
平成26年度土木学会技術功労賞を受賞されました。

黒谷武晴（昭和28年生まれ）
昭和46年（株）大歳組入社
昭和58年一級土木施工管理技士取得
平成13年より常務取締役、現在に至る



黒谷氏は自らが発案・考案した施工技術を各方面に発表するなど土木工事の効率化省力化に貢献されているほか、継続学習は

土木学会技術功労賞

選考対象

長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者。

対象分野

1. 教育・研究・啓発
2. 調査・計画
3. 設計・監理
4. 用地・補償
5. 施工・検査
6. 管理・運用・防災・保全

291ユニット（広島県会員3600人のうち最多）を取得、広島県技士会の理事としても会員の技術力向上に熱心に取り組んでいらっしゃる。黒谷氏の経歴ならびに推薦理由は次の通りです。

業績要旨および推薦理由（抜粋）

○土木技術や土木事業への貢献（対象分野：5. 施工・検査）

広島県北部には、表土から5.0m付近まで軟弱なシルト系粘性土が多く分布しており、この地域で工事を施工するには、土質の改良や良質土との置換えが必要となる。

従来、土質改良は発生土とセメント又は石灰をバックホウで混合することにより行われていたが、自走式土質改良機を改良するとともに、この改良した土質改良機を操作して、生石灰と水硬性粒度調整鉄鋼スラグの2種類の固化材を使用し最適な配合量で添加する土質改良技術を発案・導入した。

このことにより、高品質な改良土の生産、改良土生産量の飛躍的な増加、使用固化材の軽減、固化材の粉塵防止による環境への負荷軽減や作業員の安全確保が図られた。

良質土の置換えで計画された公共工事で工期短縮のためこの工法に変更され、大幅に短縮された事例もある。

また、固化材として使用する鉄鋼スラグは広島県に立地する大手製鉄会社が生産過程で廃材として発生させるもので、これの有効活用が図られる。

この新技術は特許を取得し（平成21年特許第4325876号）、NETISにも登録（平成19年登録、平成22年改良登録CG-070009-A）情報公開されている。

受賞によせて

株式会社大歳組
常務取締役 黒谷武晴

【はじめに】

この度は、土木施工管理技士会の推薦により平成26年度土木学会技術功労賞を賜りました事は、誠に感謝の極みであり、心からお礼申し上げます。

昭和46年3月に(株)大歳組に入社以来44年間お世話になり3代の社長のもとに土木畑一筋に今日まで来ました。今回の受賞は歴代の社長をはじめ社員一同のバックアップと、関わりのあった全ての住民の人々、国土交通省、県、市町村、民間会社などの発注者の皆様の協力があったからこそと、支えていただいた人たちに感謝するとともに、土木学会技術功労賞の名誉を汚さないよう日々努力し若手の手本となるよう頑張り、今後とも土木技術で社会に貢献したいと思えます。

【今日までの仕事で印象に残った事】

44年間のなかで最大の印象は日本特有の四季への変化対応でした。私の居る広島県は南部では瀬戸内海地方の温暖な気候、北部にあっては雪が10cm～100cm降る積雪地域で日本の縮図の様な県です。大雪、豪雨、高温、低温のなかでの土、コンクリート、アスファルト、鉄筋等各種の出来形品質管理に現場所長時代は没頭しました。なかでも一番難しかったのは土で当地方固有の備北層群は、掘削時は軟岩より固く露出した瞬間より風化が進み盛土時には体積が膨張し支持力が期待出来なく、含水比に対して鋭敏であり豪雨時には切土、盛土を夜中であろうと絶えず自ら点検し対応していました。今は土質改良技術が進みとりわけ土質改良施工機械においては目を見張るものがあります。

また、平成7年の阪神淡路大震災、平成22年の広島県庄原豪雨、平成23年の東日本大震災、平成24年の和歌山水害、平成26年の広島市北部豪雨災害等に対して土木技術者として災害支援活動に参加させていただき国民の生命と財産を守る仕事に微力でもお手伝いできた事は印象深いです。



【おわりに】

我々の仕事は現場ごとに変わる現地一品物でありそれが故に幅広い分野でもあります。与えられた物を創る手法も一つでは無いと考えます。刻々と変化する現状にいち早く的確に対応するには多様な分野の方々の知恵と経験を基にその技能、技術を後進に伝授、指導、育成が大事だと思っています。理想な現場はいろいろな部門の歯車がかみ合わさって良質な物が安全で効率的にできるものだと思います。最後に私の好きな言葉の「自然の動きを知ろう」「人の思いを知ろう」「御縁を大切に」を心に努めていきたいと思えます。

今回の受賞にあたり、広島県の地方建設業者の私を受賞できました事は全国の土木施工管理技士会の皆様の御協力の賜物と感謝しています。

今後は地方の建設業者でも得意な土木分野で研究開発され才能を発揮してほしいと思えます。